

たけはら ひろこ  
竹原 弘子 さん(54歳)  
営農地:糸島市荻浦  
主な農産物:豚肉



## 若い女性に農業の素晴らしさを伝えたい

● 就農のきっかけ

### 同級生の農家の長男と21歳で結婚

地元の高校を卒業後、販売員として働いていた竹原さん。実家が雑貨店を開店したため、2年で退職。半年ほどそのお店を手伝っていたそうです。その頃、高校時代からお付き合いしていた同級生で、養豚農家の長男である夫と21歳で結婚。兼業農家の3姉妹の末っ子である竹原さんでしたが、農作業を全く手伝ったことはなかったそうです。「結婚する時、養豚をすることに全く抵抗はありませんでした。実家が他の農家と共同で養豚をしていた時期もあり、動物も大好きだったから、すんなり受け入れられたのではないのでしょうか。」と当時を振り返って竹原さんは語ってくれました。

● 私の今～就農後の道のり～

### 未経験からスタートし、 今では直売部門の責任者

結婚するまで豚を育てることは未経験。夫から日々飼育管理を習い、結婚して1年後には豚を見るだけで健康状態も分かるようになったそうです。

結婚して5年経った頃、夫が海外研修で2週間の留守中、全ての作業をこなしたことが、豚を育てることに対する自信につながったようです。

経営の転機は40歳を過ぎた時、当時の畜産普及員との出会い。その普及員から「豚舎が綺麗だし豚も絶対美味しい。自分で直売したほうがいい。」と言われ、直売している養豚農家へ視察に行ったそうです。竹原さんは直売することに反対したそうですが、夫の直売への意志は固く、視察の3ヵ月後には加工所兼直売店をオープンしました。

“美しい”と“美味しい”から『美豚』という名を付け、商標を登録。オープン直後からメディアの取材が殺到し、販売を順調に伸ばしてきました。当初は地元の直売所のみで販売していましたが、今では周辺のJA直売所やレストランなど幅広く販売しており、遠くは北海道のレストランからも注文が入るまでになったそうです。

現在は2名を雇用し、育てた豚を加工・販売する立場となりましたが、竹原さんは活き活きと仕事されています。

● これからの夢、目標

### 新たな商品づくりにチャレンジ

「これからは、今うちの商品にはない、常温で保存できるレトルトパックの商品づくりに挑戦し、商品のバリエーションを増やしていくことが目標です。豚の品質を生かした魅力ある商品をつくり、販路を広げ、全国展開していけたらと考えています。そして、自分が頑張る姿を見て、若い世代の女性が農業や起業って素晴らしい!自分もやってみたい!と思ってもらいたいですね。」と竹原さんはこれからの夢を熱く語ってくれました。



プロフィール

- 家族構成 / 本人、義母、夫、子1人
- 営農年数 / 約33年
- 耕作(経営)面積 / 養豚600頭
- 販路 / 直営店、JA直売店、地元直売店、直接取引(レストランなど)

### 就農を考えている女性へ

農業も他の仕事も一緒、気負わないことが大切だと思います。作業と生活のスイッチの切り替えを早く覚え、生活にメリハリをつけ、作業以外ではお洒落したりして、その世代の女性として活き活きと輝くことが必要だと思います。